

いざという時のために！

日赤奉仕団 炊き出し訓練



鎌田地区
令和5年7月1日現在
総人口 20,040人
(前年比 +147人)
世帯数 9,585戸
発行者 鎌田地区公民館
公民館報編集委員会



でき上がった豚汁をさらに小鍋にうつします

ほかに鍋や釜などの資材を貸し出した社会福祉協議会か

火を起し、3つの大鍋にお湯を沸かしたり、公民館の料理実習室で豚汁の具材を切ったりと、18名の団員がエネルギーをシユに活動していま

2週連続で日赤奉仕団鎌田地区分団(団長松本武子さん、団員33名)による炊き出し訓練が行われました。5月30日はカレーライス70食分をつくり、福祉ひろばで行われたスマイル山雅健康教室の参加者などにふるまわれました。

6月5日はご飯と豚汁を200食余りつくり、非常食体験に参加した鎌田児童センターの児童128名などに提供されました。朝から児童と一緒に米1合、水240ccを専用ビニール袋に入れてハイゼックス米をつくったり、庭に薪で

おいしいと言いながら笑顔で豚汁を食べる子どもたちを見ながら、災害が起きないことを願いつつ、いざという時に動ける組織・仕組みがあることは大事なことで改めて感じることができました。

水をごぼさないように入れてハイゼックス米を作っています。ら、鎌田地区担当の百瀬光輝さんはじめ3名の方が応援に来て、火の世話をしていました。今回の取材で、福祉ひろばや児童センターから依頼を受けた日赤奉仕団が、社会福祉協議会と連携協力し合っ

て活動していることを知りました。



公民館周辺美化作業

さっぱりしました

日頃の練習に公民館を使わせてもらっているお礼にと、参加を予定していた鎌田中学校吹奏楽部の子どもたちは、作業が延期になったことで、この日は参加できなくなってしまうましたが、お母さん方が

小嶋館長から、「職員だけでは手の行き届かない箇所での美化」についてのお願いのほか、「美化活動とともに公民館を利用するみなさんの交流の機会にも…」とのお話もあり、それぞれの分担場所に分かれた参加者は、和気藹々とした雰囲気の中、作業に精を出しました。

6月18日、雨天のため延期となっていた公民館周辺美化作業が実施されました。薄曇りでやや蒸し暑い朝となりましたが、開始時刻の9時には、鎌田地区公民館で活動しているサークルのみなさんや福祉ひろばの関係者、そして、鎌田中学校吹奏楽部の保護者のみなさんなど80名余りが集まりました。



みるみるきれいになりました

「松本草画会」の丸山代表のお顔も清々しかったです。大勢の人の力は凄いもので、終了の10時ころには、駐車場や道路のほか、体育館や公民館の周りに生い茂っていた雑草などがさっぱりときれいになりました。これでまた、多くの利用者が、気持ちよく活動に取り組むことができそうです。

代わりに参加して大粒の汗を流しておられました。こうした保護者の心意気に感謝するとともに、吹奏楽部の子どもたちの益々の活躍を願わずにはいられません。また、「お世話になっていたので、参加したいと思いましたが、年一回とはいえずこうしてみんなで作業することはいいことだと思いません」と話す公民館サークル

討を進め
ル化の検
はサーク
座終了後
した。講
ぎていま
う間に過
あつとい
2時間が
人ずつ丁寧な添削指導をされる和やかな



う〜ん…良い字だねえ

「孫も成長し時間の余裕ができたので、書こうと思う気持ちになった」「無料で学べるので」と、参加者は年配の12人。皆黙々と熱心に筆を動かす中、先生が1人ずつ丁寧な添削指導をされる和やかな

増すそうです。
書き方は線に抑揚をつけ全体のバランスに注意します。文字は毎日何枚も書くことにより身につけて字が変わり、紙や筆、墨など文房具に対する知識も

谷翔平選手」でした。
最初は半紙に漢字6文字の手本3枚、2回目は19字の細字も加わり、教室で書いた中から1枚、家で書いた中から2枚を提出します。初めての宿題は「大

馬場雄治さん。
鎌田地区公民館では、6月9日から隔週全4回の初心者向け無料の書道体験講座を開催しました。講師は島内の

書道

書いただけ身につく

無料体験講座開催



花いっぱいになあれ 花苗を配布しました

6月9日、鎌田地区公民館に色とりどりの花苗が並びました。緑化推進委員を担う町会長さんが、希望した町会に花苗を配布するためです。

井川城中区では、中田町会長と中村公民館長が、持ち帰った花苗をさっそく公民館のプランターに移植しました。土づくりをしてから、サルビア、トレニア、日々草、ペゴニア、ペチュニア、メランポジウム、ブルーサルビアを見比べ、配色を工夫しながら植えていました。

この館報が届くころには、各町会の花が見ごろになっているでしょう。



お！良い色の組み合わせだね

民生・児童委員「西駒郷」訪問



クリーニング作業の説明を聞いています

6月13日、鎌田地区民生委員・児童委員協議会の27名が昭和43年に開所し、その後事業を拡充してきた長野県社会福祉事業団が運営する障がい者支援施設「長野県西駒郷」を訪ねてきました。

施設は大田切川を挟んで駒ヶ根市と上伊那郡宮田村に位置しており、長野県全域から利用者を受け入れていきます。西駒郷は18歳以上の知的障がいの人たちが、それぞれ必要に応じた支援を受けながら、豊かな暮らしと社会的自立をめざして生活しています。

当日は、地域生活への移行をめざして、豆腐、どら焼きの製造販売や、薪割りやクリーニング作業などを楽しそうに行っている様子を見せていただきました。

参加者からは「自然環境に恵まれた広大な敷地の中の生活は快適なのは」「入所者と話が良かった」などの感想が聞かれました。

雑感

会社勤めをしてきた40代後半の頃、自宅で机の位置を変えようとして突然腰痛に襲われ、腰椎椎間板ヘルニアと診断された▼数日後、腰を庇いながら出勤すると多くの人が声を掛けてくれたが、その多くは「最初にしっかりと治しておかないと再発して苦労するよ」といった内容で、繰り返し聞かされると見通しが暗くなつて落ち込んだ。そんな中で、一人の後輩が「最初にしっかりと治療をしておけば再発しにくいですよ」と言ってくれた。その時には、目の前が明るくなった気がしてうれしかった▼小売業の接客マニュアルでも「よくお似合いですがお高いですよ」は禁句で「少々お高くなりますがとてもよくお似合いですよ」が推奨だ。どちらの言葉が気分よく購買意欲をそそるかは明らかになように、同じ内容を伝えて逆の印象を与えてしまうことがある▼「ものは言いよう」というが、相手の心を和らげる、あの時の後輩のような言葉づかいが自然にできるようになりたいと思いがらこの歳になつてしまった。(小林睦和)